

（端裏書）

「与惣兵衛様 惣十郎

へ

」

以別紙得貴意候

然^者当春出府之砌

貴兄様大谷新九郎

御働キ以今三年之暮

極内御内用御出情

御献上被成候旨申上

御承知被遊

御機嫌ニ思召御楽ニ

被為成候、彼是年内

間も無御座候付、当

暮之处御沙汰申上置

候様ニ貴家様より

大新亦々相働キ

出情仕候旨私より申述

置候^而被仰付候、不相

変世上指支殊ニ当

年之在方存外之

年柄故深田手前へも

毎度之惑迷ニも可

御座有候へ共当春之

御内約ニ付何卒く

手段指上候様貴家様より

大新^江厚ク御相談

被成様被仰付候并

深田内願之筋共御座

候得^者随分思召ヲ以

御働キ被遣候間私迄

御沙汰被遊候間此段

御含置可被遣候、未タ

暮迄間も御座候得共

申上置候旨被仰付候付、此段

如斯御座候、已上

十一月十三日